

白樺荘において現地説明会を実施

静岡市が発注して工事を進めていた白樺荘（葵区田代）が6月末に完成（オープンは7月1日）し、事業主体の市都市局建築部公共建築課が木造高齢者居住施設研究会（略称：高齢研）に対し、平成21年12月7日（月）に現地にて施設見学会を実施し、その際に高齢研は「木造建築物の建物における環境負荷の調査」報告を行いました。この環境負荷の調査は高齢研が、地球温暖化の影響から多数の問題が浮上してきている中、一般的に環境負荷が低いと考えられている木造建築物について、建設段階と使用段階における炭素排出量を白樺荘建設を調査対象としてデータ採取をすることを市から許可を受けて実施し、このほどその中間結果がまとまったので現地にて報告を行ったものです。地域材を使用して木造建築物を立てた場合には生産・輸送で排出される炭素量の2倍程度の炭素をこの建築物が固定化しているとの結果になりました。（静岡大学農学部林産科住環境構造学分野所属 伊藤小由美様中間報告）

- 木材は、鉄やアルミニウム、コンクリートといった主要素材に比べて、
- ① 樹木の成長によって炭素を吸収する、
 - ② 建築材製造エネルギーが格段に少ない、
 - ③ 建築物が炭素を固定化する、
- という優れた相乗効果で地球温暖化のSTOPに大きな力を発揮していくことでしょう。（けん木れんリーフレットより）



申込条件

※下記の6つの条件をいずれも満たしている場合に申し込みできます。

- ① 主要構造材は、市内で木材業を営む県産材取扱業者で製材されたもの、かつ、建築と施工監理は、市内で営業する建築士、大工・工務店によって行われること。
- ② 主要構造材に『地域材』を60%以上使用すること。
- ③ 市内に住宅を新築、建替えまたは増改築をし、居住すること。
(昭和56年5月31日以前に建築され、耐震診断により補強が必要と診断された住宅の建替に関しては優先して受け付けます。)
- ④ 提供された柱・土台は、申請した建築現場以外では使用しないこと。
- ⑤ 建築現場を見学会など展示PRの場として提供が可能であること。
- ⑥ 建築現場に地域材使用の表示PRを行うこと。(PRのぼりを提供します。)

必要書類

- 様式第1号（柱・土台の提供についての申請及び確認書）
- 様式第2号（木材使用内容）
- 様式第3号（柱・土台申請内訳書）
- 添付書類：①建築確認通知書1面～5面（写）（申請書（写）でも申込時は可能）②柱・土台の申請内容を、確認通知に使用した平面図にマーキングして番号を付け提出してください。③建築現場案内図（ゼンリン地図など）④建築請負契約書（写）⑤「わが家の専門家診断」の診断結果報告書の写し（建替えの場合のみ）

諸費用

【新築・建替えの場合】

◎育てる会入会金

申請者（施主）は育てる会に入会していただきます。その際入会金として5,000円をお支払いいただけます。

静岡ひのき・杉の家
静岡地域材活用住宅推進協議会

静岡市森林組合・井川森林組合・清水森林組合・静岡木材業協同組合・静岡製材協同組合・静岡大工建築業協同組合
清水建築組合・静岡県建築士会静岡支部・静岡県建築士会清水支部・清水港木材協同組合

静岡地域材活用住宅推進協議会 静岡ひのき・杉の家推進事業担当事務局
〒420-0011 静岡市葵区安西2丁目21番地（静岡木材業協同組合内）
TEL(054)271-7288・FAX(054)271-7268

＊ ＊ 静岡ひのき・杉の家 ＊ ＊
お役に立ちたいな通信 住まいる・フォレスト



静岡の森を育てよう！
～地域材の活用が、皆さんの森を育てます～

静岡の木で、家を立てる方へ 静岡市の助成を受けて
地域の【ひのき 杉の柱・土台】をプレゼント！！
静岡の森は、皆さんと共生することをきっと望んでいます。

事業内容

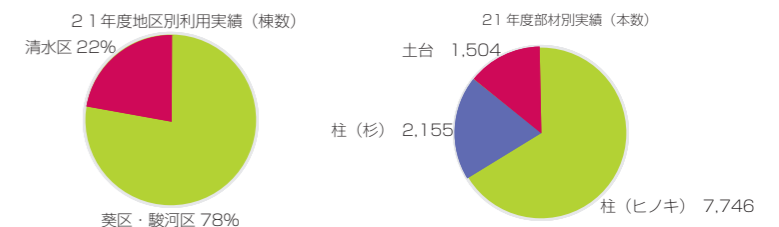
- ☆提供するの → 地域のひのき又は杉の柱・土台（構造材でJAS規格を準用）です。
- ☆規格寸法は → 10.5cm又は12cm角で、長さ3m又は4mです。
- ☆提供数量は → 市内で150棟（H20年度実績）です。※事業予算を超えた時点で終了です。
申込締切：毎月原則第1・第3金曜日

H21年度分終了。 H22年度分 4月より受付開始。

- ☆提供する本数は → 1棟あたり柱・土台合わせて100本を上限
金額換算で30万円以内です。
増改築の場合は10万円以内です。

（建築する住宅において、実際に柱・土台として使用する本数を上限とします。）

年度別実績表



年度	棟数			本数				金額			地域材使用量		
	静岡地区	清水地区	合計	柱		土台	合計	柱		土台	合計	m ³	%
				ヒノキ	杉			ヒノキ	杉				
21年度実績	112	32	144	7,746	2,155	1,504	11,405	29,125,884	5,629,794	6,961,396	41,717,074	1825.505	76.311
20年度	119	35	154	7,863	2,879	1,534	12,276	29,901,435	7,967,101	7,304,626	45,173,162	2116.007	76.734
19年度	109	22	131	6,889	1,867	1,256	12,012	26,885,286	5,256,028	6,023,941	38,165,255	1736.024	75.911
18年度	107	22	129	7,300	1,192	1,302	9,794	28,194,641	3,087,407	6,227,146	37,509,194	1636.782	74.310
17年度	108	9	117	7,036	1,653		8,689	26,489,401	4,542,172		31,031,573	1455.306	72.505
16年度	93	19	112	6,889	1,200		8,089	26,705,507	3,471,284		30,176,791	1513.007	74.622
15年度	33	8	41	2,532	441		2,973	9,752,952	1,295,852		11,048,804	532.460	75.910

木造住宅ができるまでを体験するツアー

これから住宅を建てようと考えている静岡市民を対象に、平成21年10月17日（土曜日）「木造住宅ができるまでを体験するバスツアー」を実施しました。午前9時に駿河区の合同庁舎を出発し、最初の建築現場、葵区城北に向かいました。参加者は一般から11名と引率の当協議会メンバー6名の総勢17名です。

9時半に到着すると出迎えた工務店の社長から資料をもらい、そのまま建築途中の住宅の中に入り、地域材の柱や梁、床や天井などを観察しながら工務店の社長の説明に耳を傾けました。



■木造住宅ツアーに参加して頂いた方々（取材協力：斎藤邸）



■工務店社長による住宅内部の説明（取材協力：斎藤邸）



■参加者たちに熱心に説明をしてくださった工務店社長（取材協力：斎藤邸）

20分ほど視察した後、次の建築現場である葵区田町に向かいました。ここでも建築途中の住宅を視察し、工務店の専務から説明をもらいました。



■取材協力に応じて頂いた野村邸建築現場



■工務店専務による説明（取材協力：野村邸）



■地域材より提供を受けた四寸角の柱（取材協力：野村邸）



■地域材の説明（取材協力：野村邸）

伐採現場

その後、地域材の伐採現場見学をするために葵区「高山市民の森」へ向かいました。実際に木材を伐採しているところを見学しました。40分ほど見学した後バスで中助助文学記念館に寄り古民家を見学し、出発地である合同庁舎に戻ってきました。移動中に当事業の説明を行い、地域材を利用して家を建てるのが、金銭的に有効であるだけでなく、エネルギーのロスも少なく、地球環境の保全にも有効であることが参加者に理解された物と思われます。



■高山市民の森に生息する地域材 CO2の削減など重要な役割を果たす



■清々しい空気の中、市内の森林状態の説明を受ける



■伐採の実演 間引きをする事によって木の生長を支える

産業フェアしずおか2009への出展

平成21年11月7日（土）～8日（日）の二日間、ツインメッセ静岡で開催された「産業フェアしずおか2009」において、南館林業ゾーンにブース出展し、そこに地域材活用住宅推進事業で認可された住宅建築に実際使用する柱を实物展示しました。また7日10：45～11：15に北館ステージで実施された「静岡産品自慢」コーナーにおいて事務局がステージに上がり当事業の趣旨と制度の内容を紹介しました。



■大工組合による地域材を使用した上棟風景



■棟梁達による鉋の実演



■実際使用する柱を展示

静岡めぐもりの空間推進事業

昨年度までの一般住宅を対象にした「静岡ひのき・杉の家」推進事業に加えて、今年度より「静岡めぐもりの空間」推進事業が新たに実施されることになりました。これは市内に幼稚園・保育園の園舎を新築・建替えまたは改装をする場合、静岡市内で木材業を営む県産材取扱業者で製材された木材製品（以下「地域材」という）を金額換算で新築・改装の場合500万円、改装の場合300万円を超えない範囲で材料提供するものです。

この事業の第1号に認定されたのが静岡市葵区にある桜花幼稚園です。今使用している鉄筋コンクリート作り3階建ての園舎の横に新しく木造平屋建ての園舎を2棟建て、完成後に旧園舎を取り壊して、そこに3棟目の園舎を建てて完全木造化を図るものです。最終完成は21年度末を予定しています。去る11月10日に最初の園舎の上棟が行われ、26日にもう1棟の上棟が行われました。最初の時に園長先生からお話を伺うことが出来ました。園長先生は現在も東京在住で毎日新幹線通勤をしています。都心なので緑少なく自然も希少に感じている人ならではの考えを聞くことが出来ました。



【園長先生のお話】

まず、子供たちの持つ感性を最大限に引き出すには木造が最適だと考えます。木造だと冬暖かく夏は涼しいので人工的な冷暖房の必要がありません。自然を肌で感じる事が出来ます。夏は自然に汗をかき、冬は震えによって体温を上昇させるといった機能が発達します。幼児期にそのような環境に触れることが大切なのです。

またデッキテラスも大きくとることにより子供が座って遊ぶようになります。すると遊びが持続し忍耐強さが発達します。情緒不安定を食い止めるのに大いに効果があります。このように多岐にわたり子供の内面、機能の発達の助けになります。

それと、冷暖房をしないことにより消費するエネルギーも少なく済み、地球環境にやさしいというメリットもあります。このように大いにメリットのある木造建築を取り入れることに積極的に取り組むことにしました。そのような時に工務店からこの「静岡めぐもりの空間」推進事業の制度を紹介され、補助していただけることは大いに助けになります。

【工務店社長からの要望】

木造の環境の中で成長する子供達の変化をぜひとも記録して欲しい。

【筆者からの質問】

建物以外にも園庭についても何か意識して整備することをお考えですか？

【園長先生のお話】

庭の外周には桜の木を植えたいです。それ以外にも実の成る木や野菜なども植えると鳥や虫なども集まってきてその観察も出来るようになります。今の街中に住む子供達は虫1匹で大騒ぎになりますが、その虫が益虫か害虫かの区別が付きません。これは自然の多い田舎で生活している子供達にはごく当たり前に学習できることですが、そのハンディを乗り越えさせるためにも積極的な植物栽培を図りたいと思います。

【静岡地域材活用住宅推進協議会専務からの質問】

あと、何か要望はありますか？

【園長先生のお話】

たまたま自分は身近に良い工務店さんがいたからこの木造化が進められたのですが、木材に関わらず建築部材は年月が経つにつれ変形や不具合が生じてきます。そんなトラブルを対処するために相談できる専門家が身近にいれば、他の幼稚園・保育園も積極的な木造化が進められると思います。ぜひとも早くそのような環境になることを望みます。

以上、都会に住む園長先生のお考えを話の端々に伺うことが出来ました。



■子供たちの持つ感性を最大限に引き出すには、木の温もりが最適と述べる園長



■地域材の良さ、木の温もりをもっと皆さんに知ってもらいたいと語る専務



■完全木造化を図る、桜花幼稚園 ※21年度末に完成予定